

南極通信

【定時制】第1号

R6年12月11日



いざ南極へ，出発！

R6年12月5日(木)，成田空港から第66次南極地域観測隊がオーストラリアのフリマントルに向けて出発しました。フリマントルでは、先に日本を出発していた海上自衛隊の砕氷船「しらせ」が港で観測隊の到着を待っていました。フリマントルに着いた当日からさっそく「しらせ」で船内生活がスタート！大人数での共同生活，様々な「しらせルール」…少しずつ慣れていきます。フリマントル港で3日間南極行きの準備をした後，12月9日(月)10時，南極へ向けて出航しました。しばらく陸とお別れです。これから大冒険が始まります。



行ってきます！

出航当日…「暴風圏に入るのは出航から2日後」のはずなのに，船は初日から激しくゆれました！！風が強くて，波は3mにもなりました。前後左右にゆっくりゆれて，ふんばらないとまっすぐ立ってられないほどです。日本にいるときは船酔いを心配していましたが，今のところは何ともなく，ほっと一安心。これから暴風圏に突入したらどうなることや…。



さて，これから昭和基地に向けて，約3週間の船旅が始まります。次の南極通信は，しらせ船内の生活や，海洋観測の一部を紹介するので楽しみに！

4代目、砕氷船しらせ



フリマントル港にて。オレンジの船体が青空に映える！



“ICE BREAKER SHIRASE”



with 三丘タオル

日本の南極観測船は，初代の「宗谷」，2代目の「ふじ」，3代目の旧「しらせ」について，4代目の新「しらせ」が日本と昭和基地を毎年往復しています。現在の「しらせ」は，船長138m，船幅28m，排水量12,500トンもある世界でも最大級の砕氷船です。

今年は観測隊65名，海上自衛隊約180名を乗せ，南極へ。これから南極大陸へ近づくと，だんだん氷が見えてきます。「しらせ」は海水や定着氷を割りながら，昭和基地の近くまで向かいます。

☆氷が見られるのは約1~2週間後？氷を割って進む「しらせ」の勇敢な姿は，後日レポートするので楽しみに！